

グローバル地域文化学部での学び ～「当たり前」の向こう側へ～

たとえば、チョコポッキーを例にして考えてみましょう。

いわずとした、日本では「当たり前」のお菓子ですね。

チョコポッキーは、細い棒状のクッキー部分と、その上にコーティングされたチョコレートからできています。では、クッキー部分の原料はなんでしょうか？ そう主として小麦粉です。ではその小麦はどこから来ているのでしょうか？ 農林水産省の資料を見ると日本の小麦自給率は十二パーセントとなっています。日本の小麦のほとんどはアメリカやカナダなどからの輸入に頼っているわけです。とすれば、できるだけ安く生産したいと考える業者は、少し高めの内産小麦と、安い輸入小麦のうちどちらを使うでしょうか？ 答えは明白ですね、おそらくポッキーに使われている小麦粉は輸入小麦粉だということがわかります。

では、その上を覆っているチョコレートはどうでしょう？ 原材料名はカカオマスですが、これはカカオの実の胚乳から作られるものです。そして、日本で使われるチョコレートは、主としてアフリカのガーナから、あとはエクアドルやドミニカ共和国のような中南米から輸入されているのです。

これだけでしょうか？ いいえそうではありません。原料として使われている植物油脂、ショートニング、でん粉、乳化剤も大豆やトウモロコシが原料ですが、大豆の自給率は二十四パーセント、トウモロコシはほぼゼロパーセントであることを考えると、これらも主たる輸入国であるアメリカのものであることがわかってきます（そして、アメリカの大豆やトウモロコシのほとんどは現在遺伝子組み換え作物だったりします）。

このように、ごくごく身近でローカルな食品が、グローバルな食品流通の流れの中にあるということが、ここからは見えてくるのではないのでしょうか？ まだ皆さんのなかでチョコポッキーは「当たり前」のお菓子のままでしょうか？

もし、自分が日常で食べているものの由来に少しでも興味がわいたなら、普段当たり前前に食べている卵や牛乳、あるいは鶏肉や豚肉の由来をスマホで調べてみましょう。ちょっと「当たり前」に疑問を抱くだけで、まったく違った世界が見えてきます。あるいは、皆さんが着ている衣服の原材料や生産工場がある国について考えてみるだけでも気づきはあるはずです。実は、あらゆる「ローカル」なものは「グローバル」に浸されているわけです。

「当たり前」、は思考停止をもたらします。それ以上考えることを阻むのが「当たり前」という発想です。だから、「当たり前」のものなどなにとつない、とこの学部に入る皆さんはまず、胸に刻んでほしいと思います。

そうして初めて見えてくる新しい世界を探求するための、語学からさまざまなディシプリンや方法論についての授業がこの学部では豊富に用意されています。それらを、自分の関心に取り組むための道具として能動的に組み合わせ履修し、充実した四年間を過ごしてください。

さあ、「当たり前」の向こう側への出発の時です。

グローバル地域文化学部
学部長 遠藤 徹

目指すべき人物像

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科は、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカ3つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって国内外のあらゆる場面で活躍し、本学の教育理念のひとつである国際主義を更に推進できる、良心と自由な精神を備えた人物の育成を目的としている。従って、本学部では、世界の中で自身の地歩をしっかりと持つ自立心と独創性、自身とは異なる価値観を受け入れることのできる、広い識見に支えられた寛容さと柔軟さ、および隣人との関係性の内に地球規模の課題を発見し、希望ある共生社会を構想する高い志を身に付けさせる。

- 複数の外国語を運用することができ、地域文化に関する学際的な知識を持つとともに、それらをグローバルな視野から多角的かつ批判的に考察することができる。(知識・技能)
- 世界の惨状や人々の哀しみに感応しつつ現代世界が抱える諸問題を自ら発見・理解するとともに、その解決へ向けた方途を柔軟かつ独創的に思考することができる。(思考力・判断力・表現力)
- グローバル社会の流動的な境界に対する鋭敏な感性を持ち、他者を尊重する寛容さや協調性および良心ある知性に基づいて、希望ある共生社会の構想と実現に向けて貢献できる。(主体性・多様性・協働性)

〈2018年度以降生対象〉カリキュラム・ポリシー

本学部のカリキュラム編成の基本方針は、世界の諸地域が抱える現代の問題とグローバルな課題の間の密接な関連を理解し、国内外のあらゆる場面で活躍できるような人物を育成することにある。この基本方針に基づき、1学科3コースのカリキュラムとして必修科目(28単位)、選択必修科目A群(6単位以上)・B群(1単位)・C群(24単位以上)、選択科目A群(20単位以上)・B群・C群(16単位以上)・D群を設置し、124単位の修得を卒業要件とする。

▶必修科目

- 必修科目群の講義科目は、1年次に8単位を履修し、グローバル化する世界や各地域の現状に関する基礎知識やそうした現状を学ぶ視点などを習得する(知識・技能)。
- 必修科目群の演習科目は、1年次から4年次まで段階的に12単位を履修する。1年次では大学で学修を進めていく上で基本的な姿勢や技法を主に身に付けること(知識・技能)、3年次から4年次にかけては卒業論文の執筆に向けて学術的な研究テーマを立て、自ら調査・研究を進められるようになることに力点を置く(主体性・多様性・協働性)。(2年次は、下記選択必修科目A群のグローバル地域文化教養セミナー科目群にある演習を選択する。)
- 4年間の学びの集大成として、自ら問いを立てた研究テーマについて、4年次に個別指導を受けつつ、各自で研究・調査を進め、卒業論文(8単位)としてまとめる(主体性・多様性・協働性)。

▶選択必修科目A群

- 選択必修科目A群(グローバル・イシュー科目群およびグローバル地域文化教養セミナー科目群)からは、主に1年次から3年次にかけてグローバル・イシュー科目群から4単位以上、およびグローバル地域文化教養セミナー科目群から2単位以上を含む6単位以上を選択履修する。複数の国や地域にまたがるグローバルな現象と課題の基礎知識を獲得し(知識・技能)、調査や分析を行なうための学問的手法を身に付け(思考力・判断力・表現力)、希望ある共生社会を積極的に模索する(主体性・多様性・協働性)。

▶ 選択必修科目B群

- 選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）では、既に修得した外国語運用能力や当該地域に関する知見を生かしつつ、異なる歴史や文化を背景とする人々と日々積極的に交流することを目標に、1単位を選択履修する（主体性・多様性・協働性）。

▶ 選択必修科目C群

- 選択必修科目C群（外国語科目群）では、諸地域の歴史や文化を正確に理解するためのスキルとして複数の外国語運用能力を高めることを目指し、英語に加え11言語の中から1言語を選択し、主に1年次から3年次にかけて、第一言語は14単位以上、第二言語は10単位以上を履修する（知識・技能）。

▶ 選択科目A群

- 選択科目A群の「歴史」と「文化」の講義科目群は、1年次から3年次にかけて基礎から発展へと段階的に履修することを通じて、各地域の文化と社会の歴史的形成過程や多様性について基礎的な知識を習得し（知識・技能）、諸現象を的確に理解・分析する能力を培う（思考力・判断力・表現力）。また、主体的かつ対話的な学びを通じて、多様性に富んだ社会に適応し、異なる歴史や文化をもつ人々と協働できる力を養う（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の「課題」分野の講義科目群では、現代世界が抱える特定のトピックに絞って深く学び、その問題の打開策について検討し（思考力・判断力・表現力）、良心ある知性をもって他者と協調しつつ行動する志を育む（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群には、情報リテラシーを高めることを目的に、「情報機器の操作」および「発信スキル実践」を1、2年次から履修できるように配置する（知識・技能）。

▶ 選択科目B群

- 選択科目B群（地域文化研究隣接科目群）は、必修科目群および選択科目A群を補完・強化する社会科学系の講義科目であり、各自の関心に沿って履修し、研究対象地域や研究方法などに関する知識を深めることを目指す（知識・技能）。
- 各言語を用いて各地域の研究に必要な語学力、および地域文化研究のための研究能力の向上を目指し、最終的に卒業論文を現地語資料の読解をとおして執筆できる能力を育むことを目的とする（知識・技能）。

▶ 選択科目C群

- 選択科目C群は、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、免許資格関連科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目などから構成され、グローバル社会に対応できる幅広い知識と柔軟な発想力の習得・強化を目指し、16単位以上を選択履修する（知識・技能および思考力・判断力・表現力）。

▶ 選択科目D群

- 選択科目D群では、各言語を用いて各地域の研究に必要な語学力、および地域文化研究のための研究能力の向上を目指し、最終的に卒業論文を現地語資料の読解をとおして執筆できる能力を育むことを目的とする（知識・技能・表現力）。

▶ 免許・資格関連科目

- 中学校教諭（社会）および高等学校教諭（地理歴史）の免許取得に必要な免許・資格関連科目を設置する。該当する免許の取得を希望する学生は、免許・資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。
- 博物館学芸員、図書館司書、および学校図書司書教諭の免許の取得を希望する学生は、免許資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。

〈2017年度以前生対象〉カリキュラム・ポリシー

本学部のカリキュラム編成の基本方針は、世界の諸地域が抱える現代的問題とグローバルな課題の間の密接な関連を理解し、国内外のあらゆる場面で活躍できるような人物を育成することにある。この基本方針に基づき、1学科3コースのカリキュラムとして必修科目（28単位）、選択必修科目A群（6単位以上）・B群（1単位）・C群（24単位以上）、選択科目A群（20単位以上）・B群・C群（16単位以上）を設置し、124単位の修得を卒業要件とする。

▶必修科目

- 必修科目群の講義科目は、1年次と2年次に8単位を履修し、グローバル化する世界や各地域の現状に関する基礎知識やそうした現状を学ぶ視点などを習得する（知識・技能）。
- 必修科目群の演習科目は、1年次から4年次まで段階的に12単位を履修する。1年次では大学で学修を進めていく上で基本的な姿勢や技法を主に身に付けること（知識・技能）、2年次では資料の収集力や分析力だけではなく、学修成果を発信する力も向上させること（思考力・判断力・表現力）、3年次から4年次にかけては卒業論文の執筆に向けて学術的な研究テーマを立て、自ら調査・研究を進められるようになることに力点を置く（主体性・多様性・協働性）。
- 4年間の学びの集大成として、自ら問いを立てた研究テーマについて、4年次に個別指導を受けつつ、各自で研究・調査を進め、卒業論文（8単位）としてまとめる（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目A群

- 選択必修科目A群（グローバル・イシュー科目群）からは、主に1年次から3年次にかけて6単位以上を選択履修する。複数の国や地域にまたがるグローバルな現象と課題の基礎知識を獲得し（知識・技能）、調査や分析を通じて考察を深め（思考力・判断力・表現力）、希望ある共生社会を積極的に模索する（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目B群

- 選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）では、既に修得した外国語運用能力や当該地域に関する知見を生かしつつ、異なる歴史や文化を背景とする人々と日々積極的に交流することを目標に、1単位を選択履修する（主体性・多様性・協働性）。

▶選択必修科目C群

- 選択必修科目C群（外国語科目群）では、諸地域の歴史や文化を正確に理解するためのスキルとして複数の外国語運用能力を高めることを目指し、英語に加え11言語の中から1言語を選択し、主に1年次から3年次にかけて、第一言語は14単位以上、第二言語は10単位以上を履修する（知識・技能）。

▶選択科目A群

- 選択科目A群の「形成」と「多様性」の講義科目群は、1年次から3年次にかけて基礎から発展へと段階的に履修することを通じて、各地域の文化と社会の歴史的形成過程や多様性について基礎的な知識を習得し（知識・技能）、諸現象を的確に理解・分析する能力を培う（思考力・判断力・表現力）。また、主体的かつ対話的な学びを通じて、多様性に富んだ社会に適応し、異なる歴史や文化をもつ人々と協働できる力を養う（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群の「課題」分野の講義科目群では、現代世界が抱える特定のトピックに絞って深く学び、その問題の打開策について検討し（思考力・判断力・表現力）、良心ある知性をもって他者と協調しつつ行動する志を育む（主体性・多様性・協働性）。
- 選択科目A群には、情報リテラシーを高めることを目的に、「情報機器の操作」および「発信スキル実践」を1、2年次から履修できるように配置する（知識・技能）。

- 選択科目A群には、自ら問いを立てて調査を行う方法を他者との関わりの中で実践的に学ぶことを目標とした「フィールドワーク」を3年次に配置する（主体性・多様性・協働性）。

▶ 選択科目B群

- 選択科目B群（地域文化研究隣接科目群）は、必修科目群および選択科目A群を補完・強化する社会科学系の講義科目であり、各自の関心に沿って履修し、研究対象地域や研究方法などに関する知識を深めることを目指す（知識・技能）。

▶ 選択科目C群

- 選択科目C群は、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、免許資格関連科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目などから構成され、グローバル社会に対応できる幅広い知識と柔軟な発想力の習得・強化を目指し、16単位以上を選択履修する（知識・技能および思考力・判断力・表現力）。

▶ 免許・資格関連科目

- 中学校教諭（社会）および高等学校教諭（地理歴史）の免許取得に必要な免許・資格関連科目を設置する。該当する免許の取得を希望する学生は、免許・資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。
- 博物館学芸員、図書館司書、および学校図書司書教諭の免許の取得を希望する学生は、免許資格関連科目として指定された科目の中から所定の科目を履修する（知識・技能）。